

自己評価および外部評価結果【3ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、その人らしく生活を送ることが出来るよう本人様、家族様のご希望を最大限尊重し、現場で活かされるよう取り組んでいる。	「地域の中でその人らしく暮らし、地域に密着した尊厳ある生活」の趣旨の法人理念と各ユニットの今年のスローガン「一人ひとりの笑顔を大切に日々を紡ぐ・利用者の思い気持ちを大切に寄り添うケア・みんなで広げよう笑顔の輪」を玄関やユニット入口に掲げている。ミーティングや事業所会議で意識の徹底と実践の振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症にて行えていない。 今度、地域との交流を増やして行きたい。	コロナ渦において外出・面会の規制が長期にわたり地域との交流が難しく、ボランティアによる音楽演奏やアニマルセラピー、保育園児との交流も現在は中止している。今後地域のオレンジカフェへの訪問も含めて再開したいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に開かれた発信として、定期的に玄関のホワイトボードに利用者様が書いた標語を出している。また、ブログを毎月更新している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症にて施設での開催は行えていなかった。その際書面開催とし資料を地域の代表、包括支援センターの代表、家族様、に郵送していた。令和5年8月より施設内にて運営推進会議実施。地域の代表、包括支援センターの代表、家族様、利用者様を交え意見交換、現況報告を行っている。	運営推進会議構成メンバー参加の下、対面開催は2回で、4回は文書での報告となっている。行事・事故・状況報告を行い、会議議事録は会議構成メンバー全員に送付し、玄関に開示している。地域からは民生委員の参加はあるが、幅広い地域住民の参加と意見収集の方法に課題がある。	事業所の取り組み内容を明示し、多様な外部の人から助言と支援を得る重要な運営推進会議の充実を図るため、地域の代表者(自治会代表・薬剤師・近隣の)福祉関係者等)に出席を呼び掛けて、地域に開かれた事業所独自の会議の開催に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に訪問させて頂き、現在の状況など報告をしている。また運営推進会議を通じてイベントの報告など生活の様子も伝えることが出来ている。	天王寺区の福祉課の窓口や電話で事業所の取り組み内容・運営状況を伝えている。直近では区の運営指導を受け、アドバイスを得て双方向的に協力関係を築いている。区主催の研修やふれあい喫茶は自粛している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような状況に置かれている利用者様であっても、身体拘束を必要としないケアの方法・施設内研修を行いスタッフと話し合いケアの実践に努めている。	身体拘束適正化指針文書を整え、研修・委員会でも内容・弊害・スピーチロックの理解に努めている。研修後は職員全員が報告シートに、習熟した内容やケアの取り組みについて記入し意識の徹底を図っている。不適切な言動があれば管理者・リーダーが注意を促したり、職員間で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待に関する研修を行い、虐待の防止に努めている。また、新規スタッフには必ず事前資料として虐待に関すること、認知症への理解が出来る資料を配布して虐待防止につなげている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	認知症の資料を通じ、権利擁護について学んでいる。今後も継続して尊厳ある暮らしの提供が出来るように取り組んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、家族様にはわかり易く契約時に説明を行っている。契約後も不安や疑問があれば説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の意見が伺えるよう来所時には必ず挨拶をして、お出迎えをしている。また意見箱の設置、苦情相談窓口を設け、2ヶ月に1回請求書と一緒にアンケートハガキを同封し、家族様のご希望を伺えるよう取り組んでいる。	利用者(27人)中13~14人が意見を出し、表出が出来ない人は家族から訪問時や電話で、運営面での要望・苦情を聞いている。エレベーターの床マットが汚れているとの指摘で、新しく張り替えて改善した。又居室での30分の面会時間を増やして欲しい要望や、日常生活をもっと知りたいとの声にインターネットのブログ掲載で応えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングを行い現場からの意見を聴く機会を設け、良案を実践できるよう取り組んでいる。	フロアミーティング・事業所会議(各月1回)の場や日頃のケアでの気づき・提案は管理者・リーダーと随時話し合っている。電話機・エアコンの不備の修理や、おやつレクリエーションで使うかき氷機の購入等改善できる事案は即取り入れている。6ヶ月に1回「業務月次評価シート」を利用し職員の実績や要望・意見を聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績を評価し共有する場を設けている。役職手当や教育支援制度を設け向上心につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な研修や日常の指導を通じ職員が学ぶ機会を作っている。また、利用者様のご病気などその時の必要に応じ資料を配布しは学びにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設見学会を開くなど同一事業者との交流を図るよう取り組んでいる。定期的に他社施設見学をさせていただきサービスの質を向上させるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談をおこない、ご要望を伺っている。入所後も会議を通じて安心、安全な生活を提供できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に家族様の今後の不安や困っていることを親身に聴いている。また、入所後もこまめに連絡を取り、安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と家族様のご要望を伺い、そのときのADLに鑑みて必要なサービスの提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々生活していく中、対等に接し、出来ることを探しながら生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様、本人様との話し合いを欠かさず、共にケアや支援の方法を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との手紙のやり取りや、電話連絡、面会の制限は設けず可能な限り受け入れしている。新型コロナウイルス感染症にて中止していた外出・外泊も5月より開始している。	家族・友人・知人の訪問を受け入れ、初めての訪問者(友人など)は家族から了解を得ている。これまで慣れ親しんだ理・美容院への外出や墓参り・買い物・外食は家族同行で再開している。電話・手紙の取次ぎの依頼に応え、これまでの繋がりを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員参加のイベントや話題の共有を通じて一人になる状況を作らないように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も困ったことなど相談できるよう家族様との関係作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のやりとりや会話の中から思いを汲み取れるよう心掛けている。	理念にあるその人らしい生活を支援する為「どのように暮らしたいか、何が好きか・嫌いか」の把握に日頃から言葉かけ・声掛けを行い、意向の把握に努めている。把握した情報は申し送りノート・介護記録に記入し全体で共有して計画作成に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴、趣味、嗜好を把握できるよう本人様、家族様を交え話し合いをしている。施設では、どの様に生活を送りたいかとご希望も必ず伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々観察し、詳細に記録を取り情報共有して都度必要な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族様、職員、主治医、歯科医、薬局、訪問リハビリ担当者、福祉用具担当者と話合い行っており、チームとして介護計画を作成している。	カンファレンスを毎月行い、モニタリング・アセスメントは6ヶ月毎に検討している。介護経過記録・医療連携確認票を参考に、計画作成前の担当者会議は主治医・看護師・薬剤師から電話で状態を聴き取り、利用者が同席している。身体状態変化時や重度化の際には、その都度柔軟に対応し、現状に即した計画作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量、水分量、排泄有無、心身状態の変化などを日々の状態を介護記録に記入し、職員間で共有してケアの実践・プランへの反映に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身状況に応じて柔軟なサービスを提供できるように努めており、本人様のご要望やご意向に最大限配慮し、支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあい喫茶など地域資源を活用し、日々の生活を楽しく送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	希望頂いた訪問医に月2回受診して頂いており、24時間対応の電話連絡による指示等で適切な医療を受けて頂けるよう支援している。	月2回協力医の訪問診療があり、歯科は毎週1回の訪問診療がある。看護師は往診時と隔週にバイタルサインや状態観察し体調変化や処置などあれば行っている。体調や排便コントロールなど相談し、受診の結果などは家族の面会時や電話で伝えている。他科受診が必要時は家族に連絡し付き添い受診を依頼している。受診の結果は家族に聴いて職員間で情報共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護時には事前に資料を渡し情報共有をしており、訪問看護時以外にも状況に応じ随時相談や来所され処置・対応して頂けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的に近隣病院等に出向き挨拶をして関係づくりをしている。入退院の際には迅速な情報交換に努め、ご家族への連絡を欠かさぬようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で指針を示し、看取り期には本人様、家族様のご意向を最大限尊重し、協力医療機関との連携の下、支援できる体制の構築を行っている。	「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」と看取り介護実施の定義が定められており、入居契約時に看取りケアの説明を行い、同意書を交わしている。状況状態変化時は医師から家族に説明があり管理者とケアマネージャーが同席している。利用者・家族の思い・意向に沿い看取りケア計画書を作成し研修も事前に行っている。この2年間は看取りの実績は無い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、職員全員が対応できるように指導している。普通救命講習を受講して頂き、初期対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応マニュアルを作成し、職員に向け指導している。地域の災害時の避難者受入先には名簿を提供し、円滑に対応できるようにしている。	年2回消防避難訓練を行っている。3月は夜間想定・5月は防災訓練、8月は日中に9名の利用者と避難・消火訓練、通報訓練を行っている。備蓄は乾パン・水・アルファ米など7日分完備し、職員連絡網はメールと電話連絡に統一している。有事の見守り体制は系列の事業所と運営推進会議のメンバーに協力依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マニュアルを作成し、定期的に研修をおこなっている。また、半年に一回チェックリストを用い自己点検に努めている。	言葉使いに留意して支援を行っている。ケア時に声掛けし待たせないようにする「ちょっと待って」は言わないこと。排泄・入浴・更衣・ドアの開閉時など外から見えないように等、羞恥心・プライバシーなど配慮し日常ケアを行っている。毎月1回はフロアリーダーが講師となり年間研修計画に基づき接遇研修など行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を傾聴し、自己決定できるよう働きかけている。意思表示が困難になった方でも思いを汲み取ることが出来るように、言葉かけの工夫を行い支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムスケジュールはあるが、その日の心身状態や気分に合わせて柔軟に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の趣味や好みを把握し、ご希望の洋服を取り寄せている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	イベントで利用者様のご希望を伺い食事を皆で作ったり、日々の食事メニューを掲示し、話題のひとつとすることで楽しみを持っていただけるよう取り組んでいる。	業者からのレトルト食材を湯煎、ご飯・汁物は事業所で作り提供している。糖尿病のカロリー制限や嚥下困難者のミキサー食や、ペースト状など状態に合う食べ物で無理強いしないで食べてもらっている。病院受診で補助栄養剤の処方もある。月1回おやつ・食事レクレーションで希望を聞き買い物し誕生日会・敬老会などイベントはケーキ・どら焼き・かき氷にあんこ盛、ラーメンフェスタも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の好みや嚥下の状態、個人別に必要な摂取量を相談し提供している。主治医とも連携し、必要な支援を検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人別に口腔ケアの方法を変え、その方にあつた支援をしている。また、口腔ケアマネジメントに係る計画書を作成し、目標を立てている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録して分析し、定期的に声掛け、誘導をさせて頂く事によりトイレの失敗を減らせるように支援している。	排泄チェックリストを参考に定期的に声掛けして、日中は自立で7人布パンツの人は見守りし、トイレでの排便習慣を心掛けて支援している。夜間はおむつ使用の対応になる人もいる。車いすで立位困難な場合はベッドで交換している。居室でポータブルトイレ使用3名はふらつき転倒防止の見守りしている。夜間巡視は2時間毎に行っているが、個別に対応し安眠を重視しての排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	咀嚼回数増加の促し、DVD体操、散歩、牛乳やヨーグルトの摂取、腹部保温やマッサージ等により便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	基本の入浴日は設定しているが、利用者様の気分や体調にあわせ対応しています。	週2回の午前中を入浴日とし、汚染時など追加のシャワー浴を行っている。お風呂が好きな利用者は時間を十分とり見守りゆっくりと会話できるように支援している。嫌がる利用者は特にいないが気分がのらない時は散歩し汗を流しましょう等の声掛けしている。シャワーチェア・重度者用リフト・浴室の手すりも完備している。ゆず・森林浴の入浴剤を使用し、冬至には柚を浴槽に浮かべて香りを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を通して夜間、良眠できるように支援している。それでも眠れない方には訪問医と連携し睡眠導入剤などを服用していただき、1日のリズムを整えるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の目的、副作用など職員で共有し、定期的に研修をしている。服薬内容変更した際には、その後の経過を詳細に記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり特徴を見極め、出来そうなことや楽しみごとを追求している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今までは新型コロナウイルス感染症にて外出不可でしたが外出再開してからは買い出しを一緒に行ったり、散歩に行ったりしている。またご家族様との外出の機会を確保するなど積極的に交流も図っている。	近隣の散歩を4月頃より行っている。5類変更以降は職員とコンビニやスーパーマーケットに週1回の買い物外出や天候を見て散歩している。日常的に菜園の水やりやベランダで日光浴・外気浴をして気分転換を図っている。お花見は今年ではできなかったが、今回は近くの広い店で食事目的の外出を計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様と共に日用品の買い出しをしたり、その他にも積極的に消費できる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の代筆、ポストの投函、家族、友人など電話の取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不必要なものや危険物は除去し混乱無く生活していただけるように配慮している。また、季節感のある飾りつけやイベントの写真を掲示するなどしている。	リビングは常に換気し大型エアコンと空気清浄器を2台設置している。セラ水(弱酸性次亜塩素水)で手指と手の触れる所、床などを拭き掃除をして感染予防している。日差しが強い時はロールカーテンで調整し居心地よく利用者皆が集まる場所となっている。壁には折り紙作品の額縁入りの花、お誕生日「おめでとう」の言葉・行事写真・習字が貼られてあり、季節のお便りも掲示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士話すことができるような座席の工夫をしている。ソファを設置しひとりが好きな方にも配慮した環境を整備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活歴に応じ、その方の馴染みの物を配置して頂けるよう、ご本人・ご家族と相談している。	エアコン・カーテン・クローゼット・ベッドが事業所で備え付けてある。自宅から馴染みの小物、ぬいぐるみ、本、テレビ、筆筒、鏡台一式を持参する利用者もある。テレビや筆筒の転倒防止策も入居時に行われ、安全に生活できるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかり易い標識の掲示や手すりの設置など環境の整備をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット/1階,2階,3階ユニット)

事業所番号	2791700020		
法人名	株式会社フレンド		
事業所名	グループホームフレンド天王寺		
所在地	543-0023 大阪府大阪市天王寺区味原町15-11		
自己評価作成日	令和5年9月11日	評価結果市町村受理日	令和5年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和5年9月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当施設は鶴橋駅から徒歩5分圏内にある為、ご家族・ご友人に訪問して頂きやすい場所にあり、大阪赤十字病院には徒歩3分と利便性が良いです。当グループホームでは過ごされる方の安心、安全、取り巻く環境を第一に考え、穏やかな生活を送って頂けるように日々支援させて頂いております。認知症により出来ない事や忘れてしまう事が増えても、住み慣れた地域で、その人らしく暮らして頂けるように真心をこめてお手伝いします。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>㈱フレンドは大阪府下にグループホーム・小規模多機能型施設(6ヶ所)を有し、東京・福岡にも福祉施設事業所を運営している。当事業所は2008年1月に開設された。その人の有する能力を引き出し、自分で出来る事は自分でする事によって身体能力の維持と認知症の進行の軽減に繋がるとし、管理者・職員は日々利用者へ寄り添いながらケアの具現化に努めている。直近では管理者の交代・職員の人員不足に加え、利用者のADLの低下で運営が厳しい状態ではあるが、安心安全の生活の確保を目指し協力医療機関との連携を密に行い、家族へ身体状態の報告をして情報を共有している。コロナ禍で外出・行動の規制がある中、レクリエーション(折り紙・カラオケ・習字)や食事レクリエーションではかき氷・ラーメンフェスティバルを行い、楽しみ事や日々の生活を豊かに過ごせるよう工夫している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【本評価結果は、3ユニット総合の外部評価結果である】